新續犬筑波集

坤

1961
2止

新續大筑波集「巻第十七」
秋發句「中」「ノ久

新續大筑波集

秋發句

三日月を

則常

あら引ものとも松のこゝろ哉

梵益

三日月をまつ日とこゝろ哉やま

雨節 志野

甲やまも三ケ月きれくこゝろ哉

卜琴

ゝしをもるゝ月哉

鰊とらく すりく

普天乃もてこそ

ぐそちもん

やまくちの

こる月をは

宗信 大坂

至行 義陸行之嫁

安秀 儒生卅

如貞

月翁

さとか

定秀 尾州名古屋

人乃こる

月の舟とて

勝成 号乾氏

遠唐使

ゐりそそりゆく　　五好　丹波亀岡

猟せねや月や久しき月の船

宝寛　大坂

むかせりゆく八鶴首の月乃水

三信　伊勢松坂

先陰をほそくそこうつきの水

海亀ふく

雪月やかさけをみおうへ

栗園

戈明　仙台　中尾氏

えそくにかをかおくる月乃舟

酒喜乃不ふく　多村一歩　義信

ぶくもふくくと法らんぬへ月乃水

あふふる人なよ　傑雯

そそきそりをそべ乃月や屋そね

朱秀　ひま

はそふまく

唐舩のそそ乃そそ月

一月乃水中よ　見春　筑ち

詩そはそりそそうそ月乃舟

玄扉　紀州田辺小川氏

うつり月乃
月乃みねうつりよもやうつりさわみつ
月乃舟さまつさわや行自在ん
はきのみねをおくとやうつりみつ
月の舟乃つ出乃つきうつり

一笑　伊賀上野
意翁
正次　河内小松白式
如貞
宣安　〃

つきのみねうつりとあるあけるあ
雨雲うつり月乃みねうつりとあるあけるあ
月乃舟雲やめりつ河帆
きぬ雲やめりつこめとあるを　感ず　桂袁
吉野とうつこそぴしてうる月のゆき

重明　攀
柳枝　大坂
田山　佐々生野仙醉

月乃乙くまくや二得矣

正信　攝津内田

余まちえて月を
あこちゆく杖うも
月うちそやの
つきうやかうのそうか
うちそ月乃月乃
小倉と云ふもの
月うをおもふ
ある人乃云ひ
月をうく
いるうね乃松やう
或法方の月待
法方う歌方う
そもそも
そうすむ月を
うちそを月乃
小倉と云ふもの
月うをおもふ
ある人乃云ひ
月をうく
いるうね乃松やう
或法方の月待
法方う歌方う
そもそも
そうすむ月を

素秋 うち

月うちそやの
つきうやかうのそうか
うちそ月乃月乃

閑節 古野下市

吉成 紀州勢門

如員 三法岐阜

子肴 大坂

如員

幽吟 伊勢上野

射立弥

月をこそ　ふ蓋

戸をおしなべて時雨ふるらん

月うつろひぬるものを點可　越前

ひさしかるべき月みやゐ地形ら

玉集　義政公

月うつろふる矢さきひゝさよあらし

秋弘　播磨明石

うつろふくことて月の兵

伴安　天保

いく月のうつろふまでをもる

貞成

月うつろふるまよいつまでやありつゝろ

うせよとて名を出行て一周忌り秋月順元

名をとゞめてや　越前

ふる方りめてる　越前

人こ月うつろひぬ時　同加　筆

めをつむりおひそくうやうれ月共交

野也錢別り　平吉

とをのくやと雨そそう月のお

正吉　越前福井

いるあとの新
秋の名残
雲の独のこんや
正春 尾州 あつた 住 四代

うつろふ
月のまき
をうき月やあひ見
出ぬまやとの 有恵 出雲氏

月のうつろふ
出ぬまや
月
月ころをねとこかべのうすくもり
京の人まつて 松口 江戸
くもるなよ月のこま
大坂 文
やこそうし 宗純 大坂
亀山のかもうつろふて 元陳

月のうつろふ
出ぬまや
出る月
月ころをねとこかべのうすくもり
京の人まつて 久住 江戸
くもるなよ月のこま
大坂 文
やこそうし 桂志成
感之
亀山のかもうつろふて 元陳

月をのむ雲もあらしの毒蛇哉
重明

出る程は心もあらし月のまど
冀豊 南都

月のまへうどんこそ
如貞

かまくらや月の釜おこす雪の朝
倍二流

うす雪や月にたゝかふ
親則 おわり

雪ふりや月を
宝安 ㊀

義知　河内守　武元氏

如貞

勝風　播州守　松平氏

一友　日向　矢野氏

友晨　大和

可敬　土佐氏

正信　播州赤穂氏

梵　奥州白石

水無月

吉和　杉刀吉之助
　　もとゆき

うちなびくやわらをもちもゝ波乃月
　月乃雫と玉もちを　持之　松民
もろすゝむしをゆこと乃月乃ひかり
　意朝

水乃月八天乃そゝ井もそのゝ郎
　広房　大坂
月を蛸墓仙人をかつらおとこか郎
　守光　和歌山市畠中
月乃すゝむこゑの久乃ひかりのおもしろ
　月乃ひかりのおもしろ　可全
あてこゝ乃もゝこゑる月やもろねこと
　一壺　明之
おもとも月日乃ひかりのねもとにいつくすの郎
　定則　尼
月お述懐
貧家乃ハちをすゝめ月乃玉乃ねもと
　月乃入てよ　子青
月乃ねをきゝるそやまよおろふ
　宣香　中村氏
月を山乃ひさこもる月乃嵐乃郎

秋乃夜白井中に 元隣

いねよりやそとくる月の雨

傍宗春 大坂

そとくるき九恩もねハ月

月や人ハこゝろをつくすもの

向水 伏

えわらぬや欲よりおもの月

可全

玉造社よ旬に ぬ道 大坂

月の月の植を未庵吉作り

文ともちの東をまをまる雨

月雪よりとやし酒のまをまる雨

仙室 当麻

ゆく月よりおくお宿まつせよ

知章 大坂 古志氏

竹今ひとまそ 里安清き

桑座敷雨 元与 大坂 筑

ありあつまそ雨をく参乃月

そる月 丹波福知山

きりうそやひとの也とみ月

長谷川貞恒 波

月うかをさいの
清みの山ぐま
ねくる独ちに
出る月をあむいて
かまくらに
ふる月やてら
こけ清水
月みや波うち
江のうみに
渡しの
大わたりそく　正重　柿本家　平義

月のいそ山そく　正信　柿本家

月みをやまとしとうぶじ
まさのふ　吉野下市

おもいさを清覚乃月やこうくもん
小野よりまそく　清之　柿本家　信義

猿猴のこゑや梢の清水
月の本情
如貞

つきのかつらやそくもん猿の知恵

十四日の月を

あるやそらんいまのことともち月

八月十四日なる時うり源氏物語

よるきをせよとかたらく

季吟

ともとこれひとよやねのことともち月

月の愛る其中沢　吉哥　城の柳川

こともち月や月かけはそれかみこそ無

宗久

ねもとこまさきくこともち月

おもおもすこいまやひとくらんともち月無

　　麥水　大坂

ともち月をもろともにある人をいつ

　　宗牧　泰賛氏

つまきりやもとかさねとられけりく

きてやとるくる　頓忠　大住

もも花月をもいそんやきねりほる

十五日の月

　　可長　尾州津島屋氏

月もやひきこめてなそくく

うとうをすとうふるの月乃こうひる
人〻十五夜乃月をつゝひ
あつるときてハ宗清 森村氏
十五夜も廿日かをそる
月乃ゐる一等 球お福井池田氏
もち月をかつらる内ハやつゝ清
貞氏 大和うち
能月いくそをと貧乏乃乙もの郎
品芝 大阪

新うつる四ツ乃月やまるほう
三色大腸要ゆく油元
月乃ひかりめくやおまりくるさるな
一雲乃ふるはし主朝
月のひかりてそ寝ぐらそん郎
昌長 伊勢書當氏
十五夜乃
月を月乃かつらの
元政 伊右氏

まん月乃てるや二ツ星八ツ星
ひつまりふるをれひしきまる

鞍馬ぐれそる雪よ　よそ人志ぐま雪

吉乃木のもとなとも　あれやうら乃月

海もみな　　柳枝　大坂

大海乃栄いれ乃ま浪乃月

月り雪いまうみるかくこる　　正能　天保二年代

うす雪そ月乃

意朝

柳枝

季吟もとも月波　重伝　七月

すゝきうらみくこそこるひる　　忠照　八幡

月をこそ

てん乃あせる麓賀あれや月乃ゐ　　正秀　摂ア宗

あまてこまいせ　　伯員　大坂

こあ乃あやみこめき月のかゝ

い月十五日り　　三成　勝尾

かゝ一てん志を百民乃月乙郎

三下百らんとまつしら月
唐崎の松のあなたや春の海　志民
名月をまちやうつしてうかさ
えもとりもの名月や海も一でうかさ
月を待ちくたびれ顔の名月や　主翁
うつし山乃いもを名月や自然生
名月乃つるる端やすやいもの葉　楳岳
波乃わうらいうつくし　宣寛友
年ありてひとたび来ますあふ月ぞ
名月てふ名やもとめてもあふ月や　好道
ちちもねさせ玉へ月乃ねもとかる　如圓
月乃兎見をねぶとるこよひかな　意朝
こよひ月ひろ海なる名を玉へかし　行潔　拾九ノ三

十六夜

月乃裏やこの世乃栄花こそのこり
月ハこうこん家こすいたやう世ひろふ
　　秋雲

めいくわつをいとゝ仰ぐこゝろ
　　久郁

仰ぐをもわすれぬ仰をせぬやきみよ春
　　多武乃峯ひじり　可心

名月をすゐまるの月をまるくする
　　村俊　扇屋あるじ

名月をめるにたゝ秋をもちそめかね
　　好道

もてるみくまのかなをつきそめ秋
　　近次　三井代

黄鐘乃ころものやまよりいでゝ
　　政利　近江屋当

月乃名やしるもしるらんひとまろ乃
　　明石潟みて

月ハおもう名やひとまろ乃秋乃月
　　鈴之　傳兵衛

はきのひろをるもる雲やすゝきのほ
おろ〳〵ゆりはもみぢのやまぢわる

月やこよひ名残りあらくと季吟

月やこよひ名残りあらくと季吟
康吉

やすのそや三日の月のよりかゝる
貞

もち月ハ三日の中乃もんこか郎
好道

月乃こやもゝくさ八こゝ衆中義かる
宙的 周竹

月の詩乃風そやこゝろ仙十日の空

名月乃こゝやゝ注連おまゐ川
支晨

名月乃こゝやゝ七ゝ八重
則常

三色ゐゝそ今日を志んぐ川乃註る
元政 伊勢氏

名月乃やかつゝ乃そゝゐゝそ
可全

雲そゝやゝくゝそゝゝ乃月

信濃小路之

名月の夜の月ハさやかなるものから

雨風成ともなをこのかたをまつ心

名月のかたをまつ心ハ

やうく雨落なれハ

月のかさえそりやくもりやくもるを

改之

する雨をいとふ名月の

涙雨なるらん

名月の雨をもよほす天狗哉

満長

信濃の郡吉郷

名月の雨のあめ

童香

杵刀三百

それでもなく人なりの月

正信

吉郷

月の傍もあらんものを月の内

入くにかくす

未元

大坂

いつくへ行ともしらん雨の月

正房

筑前

今宵庵乃月を名ありの実乃月

名月乃
玉来 養源寺
湯乃山
月蝕
かくや月
もち月乃蝕
月蝕皆既乃
勝政 幕
政則 近江守
十六夜
月乃かつら
重成 大川飛山
ゆくへ
ささよ乃月や
三信
こよひ
二八乃
朱秀 三浦
月乃詩
十七夜
肥後
正全 醫
十六夜

十八夜

古今　雑下　読人しらず

ありやこやひさしき月の
雲まより
もるともなしに
ほのかにも
なこそまちいづる月の
光なりけり

廿日

月かげをしるべにきつる
ものなれば
帰さを
うときものとや
さしてやるべき

源氏　須磨

伊勢山　但馬守

月乃もいつる　岡部　吉野

月ゆゑのまち出つるみや喜見城

下弦の月を　立心　尾州　小出氏

ひさしくも
うらみまつ夜の
月かげを　西信　吉野

ありあけの
月の光を
まちいでて
見しかひもなく
なりぬるかな

古今　雑躰　読人しらず

雲霧も
雨もふらぬに
ぬれつつも
月乃光を
待ぞわびぬる

十六夜

月かげや
四方の草木も
わけからん
ひとりや
さらに
袖のぬるらん

廿日

月かげを
まつとせしまに
明ぬれば
ありあけの
月ぞ
うらめしき

古今　雑下　読人しらず

ありあけの
つれなくみえし
別より
暁ばかり
うきものはなし

源氏　須磨

月かげの
いたらぬ
里もなけれども
ながむる人の
心にぞすむ

伊勢山　但馬守

月ゆゑの
ながめもいまは
かぎりとて
かたぶく
山の
端ぞうらめしき

月乃もいつる　岡部　吉野

月ゆゑのまち出つるみや喜見城

下弦の月を　立心　尾州　小出氏

ひさしくも
うらみまつ夜の
月かげを　西信　吉野

ありあけの
月の光を
まちいでて
見しかひもなく
なりぬるかな

古今　雑躰　読人しらず

雲霧も
雨もふらぬに
ぬれつつも
月乃光を
待ぞわびぬる

十六夜

月かげや
四方の草木も
わけからん
ひとりや
さらに
袖のぬるらん

廿日

月かげを
まつとせしまに
明ぬれば
ありあけの
月ぞ
うらめしき

古今　雑下　読人しらず

ありあけの
つれなくみえし
別より
暁ばかり
うきものはなし

源氏　須磨

月かげの
いたらぬ
里もなけれども
ながむる人の
心にぞすむ

伊勢山　但馬守

月ゆゑの
ながめもいまは
かぎりとて
かたぶく
山の
端ぞうらめしき

月乃もいつる　岡部　吉野

月ゆゑのまち出つるみや喜見城

下弦の月を　立心　尾州　小出氏

ひさしくも
うらみまつ夜の
月かげを　西信　吉野

ありあけの
月の光を
まちいでて
見しかひもなく
なりぬるかな

古今　雑躰　読人しらず

雲霧も
雨もふらぬに
ぬれつつも
月乃光を
待ぞわびぬる

十六夜

月かげや
四方の草木も
わけからん
ひとりや
さらに
袖のぬるらん

廿日

月かげを
まつとせしまに
明ぬれば
ありあけの
月ぞ
うらめしき

古今　雑下　読人しらず

ありあけの
つれなくみえし
別より
暁ばかり
うきものはなし

源氏　須磨

月かげの
いたらぬ
里もなけれども
ながむる人の
心にぞすむ

伊勢山　但馬守

月ゆゑの
ながめもいまは
かぎりとて
かたぶく
山の
端ぞうらめしき

月乃もいつる　岡部　吉野

月ゆゑのまち出つるみや喜見城

下弦の月を　立心　尾州　小出氏

ひさしくも
うらみまつ夜の
月かげを　西信　吉野

ありあけの
月の光を
まちいでて
見しかひもなく
なりぬるかな

古今　雑躰　読人しらず

雲霧も
雨もふらぬに
ぬれつつも
月乃光を
待ぞわびぬる

十六夜

月かげや
四方の草木も
わけからん
ひとりや
さらに
袖のぬるらん

廿日

月かげを
まつとせしまに
明ぬれば
ありあけの
月ぞ
うらめしき

古今　雑下　読人しらず

ありあけの
つれなくみえし
別より
暁ばかり
うきものはなし

源氏　須磨

月かげの
いたらぬ
里もなけれども
ながむる人の
心にぞすむ

伊勢山　但馬守

月ゆゑの
ながめもいまは
かぎりとて
かたぶく
山の
端ぞうらめしき

甲斐うかひ
　　梅花
うめはなも　　厚成　平野
　　春雨
うめはなも　　専信　江刕長渓
ぬれひやうしや　　之信　河内誉松
　　元貫　摂之部
きさらぎひやうしや　　好道

ちひさきうを
　　如貫
おぼろくうみ
　　寿秋
　　棟吾

ふうりや
かりを
秋の世やさそふ月
うわるるうそうそ
ふ里かくるかとも
燈籠ゆくかんそ八百声はひせう

子肖 大坂

暮川眞恒 阪

正香 京

林元 奥州二本松

一雪

雁陣やそろふ
石塔のうそふかわる
母猴よまのあるこみてあを
かりそはれ松そ
秋屠とうふを 正勝 生野 西成
さむかりまや牡丹
雁作字
僧文開
とひつるかとあや
立心 尾州 熱田
明をひろひゆく

好現

如圓

保好　泰彦

重寛　大坂

三信

改通　毋波

琳之　江戸

雪乃常うち志ほるゝ
　屋乃内をこそ
山乃こしめくる百字や常乃松
　可常　丹波神池寺
やまと文をうつしもてこまつかうら清みてを
　意翁
くるゝ山こしゆくうつゝまくしみ
　秋元　城お
山乃内乃絵襖乃ふるきを
　諫也　さま大宮
芹川乃ほとりにて
　岩忠　城乃神官　村
津ねゆく雪乃ふかきうらうらを
　雁作　字とうみを　昌長　勢州桑名山田
雪乃海乃ふる屋乃大師流
　廉吉
をのが住うらかおそはおそなか桃
　友下　尾州宮路氏
雪
月うまるかぎり屋出乃もきうし
　入来中屋
　常之　平野　中瀬氏
志ん乃やうそこのくらきを屋乃

宜陳　天保

常之　平野

則重　奥民

正照　中尾氏

秀昌　姫路　芳養氏

平瀬利兵衛

田畑屋敷

賢田義居

重吟

一歩　大坂

重香　堺三田中村

鴫乃羽音も
鴫
聞ゆなり
鴫乃羽音
霧こめて
霧
小野の
小野
秋の夕暮
秋夕暮
三首 肥後
西吉 竹波掃雪
定良 舞雪
意朝
直真 大津内氏
宗義 勢州
康吉

とゝゆる八ひき野ゝ
うゝゝゝを
ゆゝゝゝゝゝゝゝ

坂世そゝゝゝゝ
小鹿物を
ゆゝきゝゝあとゝゝ
ひゝゝゝをいゝゝゝ
河道遠よゝゝ

ゝびあゆゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ鈷をゝゝゝゝゝゝ

おゝゝ花をゆゝゝゝ
鹿を
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
筑ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

萩乃花をきて　正平　屋形おとや

あく志乃ハはなのやこひはつる秋乃やま

秋乃志乃のあくねやおそ志こひのそう

元貞　播磨守親

や志のおしかわれのうらのあることが邪

可改　後法興院

同鹿と志ることを

久任　大枝

伊部乃うをなむ志のおち為同留る

侍二南

志乃浦やまな同乃雪中将基

山鹿とうるを　好現

やまをちそるあ。め志のやともかせき

をそくやま志そくやまかくれ行と

志同鹿とうるを　宗良　近衛氏

とをきねそくやまれおのとそうる

政直　安藝守護

月お鹿

いさよひの月うかぬよの秋の夜乃こゑ

ちひさやま志のこのもとそ志ぐれ　廉善

えものおそくそうるなり

秋風と吹くをうちでの小松原

松久　紀列四首

降りよるをうらめしがほの小萩かな

宗勝　同

ふりくらすきみをまつ虫ねよ

如貞

物ひとやうんもしらぬ鹿の谷

意朝

降れねよ松ちりくるきみをまつ虫

益仙

掃きよせはのやどもあるじ

重明

萩のうへを掃ふ跡もあるじかな

保安

皆ちるを実相ふかき庭の面とふ文の心を

夕翁

あるや萩をりいよ実相乃のまこと

山もりく

ちるをみこれをそ

季吟

わきて人こよなく鹿てふしもり

筆捨の山もその霧やすこすこ　　京言　撫子門人

ふるかきの月笑ひ捨と云物を　　盛之　桂花氏

雲生捨と云物を　　重香　三田

末まつの雪をあとのこさぬきぬ笠捨　　一秋乃名中に　　卜雲

実りかな新蕎麦捨てもらふ郷　　可笑　三木心光

月うこそひこのうらやま猿　　道之　大坂

鹿をさそふもいふ笑や菜くひ
古今伝受せしいふ事をきゝて季吟に
牧ひつじをきゝて　　信宝寿　天満
きゝて男よ志もや秋ひつじ乃名よし
ふ車をきゝく　　資次　江刕八幡住氏
なきおくるふもとすきまり詩齊車

ひのそう猿そ
伊賀あるをいく
そひ誹諧の中に　有憲　岩氏
くりあるとこれ
みそとる山路のいろやすねこそり
丹波路よ　則常
うねくりをおもさこそ
拙句ひ数
ひろひあるくそりの山路
宗清　武村氏
たち栗をひろ
やまひめそかねは
古雲　堺の浦井
あちをひやこ
人乃浦
ゆるそ
まいまつやこ

丹波栗
尾州
みの中乃うまそり
をそまそり
ぬ道
ころをえせんの

秋乃月の中うり　知恵　大夜

実となりそく花香うふ柚の木ふ郎

袖香てとゝめおきつる久郎

香乃ある八もとゆかしき花香乃

雲列掛をうつく三信

雪列掛うり八重垣はる雪間う郎

秋の夜乃中うり政之　奥哭

あの末をあるまでとつきそうる

勝吉　掛列味吉

そふ者ゆゑ

者ふ

いろりうむ情う

勝吉　尾列うや

ふ乃月うえんこ

九月に梅をうれて　正氏　大夜う九

わるうく毒情う秋こゝむ

梅をよめる　　仲統

これもまたかたみこころりきりの梅もとまで

九月九日松永昌三亭にて人生一歩

主湯もりもみやかさねまで

主湯

久世のもりはくもよみけ

のもとに牡をとよりきてのみ

第之　山民　　玄純　安民

三可

竹のもとにおもしろの酒ひさぐ

菊を生垣もとよりもとく　意朝

そふかぬもとよりねもとまでとろろ

酒家雪

ぬれてもかもや山路乃きくの酒つろ

菊露とやきてめさめきくの露　知法　大夜

きを綿なりてめさめきくの露

栄嵐　山田氏

菊共露や菊共さめやのうそぐもり

宝寛　春夜

きくの露をもてこそそゝのかめ

きくつゆやしら髪ぬらす人の数

玉潤をうつしひさしく益仙

菊其ゝをうつしひさしく露ながら

つゆ人〻

閑あれと志ろやうるさき菊の閑

菊の閑とおもふをぬす道

拾ものそおいり松しの閑のきくそみ

盛之 狂和民

童明 蓼

そゝのかれよ志ろやうるさき菊の閑

花〻ち分をおもふをぬす道

也好 蓼

地とやあらん狂心ありきのみち

ひとりうき宝湯の僧とそ

世俗に志ろ改く 鼻雨民

二句乃偈ゝきにつゝまる数句しき

こま人乃きし

光正 谷

季吟

秋元おか

山吹菊とうたふを 三信

菊如是とつゞけたるも則常

温古 安藝広島

菊華

禁庭乃菊をこゝに作て正秀 播州

貢菊もありつゝぬの雲乃うへ

菊華

謙也 京

素琴

素琴きくやいもせの姫君をそゝのかしたる處 松月

菊の枝折をそへてたゝ琴

うつきそゝをきりにくる謙子の

こゝろそゝやらふを

正信 吉野

利昌 木屋

重吉 秀利家臣

泰次 宮戸

貞則 森板

卜琴

静 治

梵益

吉成 粉川

持之 福井

法引孫堂丸落て可金
すぎぞやー又乃おもこふくさ
お栽よ菊を植て蕪三　尾刈るこや大阪氏
たさも多いろくもるやけくのめん
添宝　大坂
おきるくさ花乃ちるや耐ひ勢
花をうとうふ人乃ことみそく
句當与一
をおいれやのき端りほう乃春雨
をも花とるを宝寛　大坂

はるとなるやー床世乃をとめそる
嘯乃巣やー　頌志　大津
尚次与てころ
おきともよなのよ羽こそもそめそる
主夫をとみそく　宗信　大坂
十六をけやー添氏乃をとめそる
才宝をいうるを指　俗る
十六をさやー屋てをそくさ　季吟

夕きりの中よりかをる
　菊のとくをこゝろにそめし匂ひ
といやうひとへ菊を燕石
菊の露をそ流香亭のすい揚妃
　狸きくを　元隣
作りける狸きくや八二星か娘　正次　位る八歳
狸ども菊やおもしろかれと　安成　位る八歳
菊花会の中より

蘭菊のいろ〳〵や乱曲秋乃てふ
　伐きくやいふきくを　よる人ちよ
淡菊とうつるもめひかりを　雅次　武歳
大きくやもろ〳〵すゐにうつる
　菊会とうかをる一和　尾州名古屋
かけろうかあるまきらかをる
　黄菊を　尚俊　藁
菊を折をいそきまきらの匂ひ哉

季吟

いそて吾ゝいろや奥列乃こゝろ〇きく

丹波福知やまて　則常

こゝねきく乃ふる雨やみてちやま

三宅をこゆる　友可　尾氏

こゝにさまやくよわつてにこう〇菊

吉兒　但馬生野

きく乃露も金玉乃こゝちする

九月の比をいつる　林鹿　江戸

十月菊しいつるを元教　尾州

九月ろくよりをくや菊九露

家信　尾州

うつろやく十業乃おきさか菊

月をこそ　正次　勝示

一重ゝ乃月に百菊みるこゝろ

九月十三夜　國之　桂安氏

菊月をさゝとるこゝろ

伯耆より和歌をくるに添てくるに大坂の

すゝき人ともあつまりきて彼社家山主
家閑室主こともまねきて興ありき
日寶市成行
月を市乃ようはくてのあそんれい　季吟
山寺人こを月乃夜ありあうるう
意朔
月もこうひありひかりる去乃二度月乃
おうとともき季吟うひひ行る
如貞
ひ江ふるようれ市や月乃友

祇空
行うう乃いちみ見
ふ秋濁世
暁秋やうさこそうる久ふ乃月
重香　三吟
十三夜り
月をのちみこうひやあまれきうう
長吉　岩代
主定　勢州桑

結うをやきなふろいをハのちみ月

栗名月と云ふを 廉春

月をてむこころひろやくろいも

亜名月よ

月とふ字をやくりもまめよさや 改良 備前

さめやみこころみ交らくる月 牧冨 伊賀氏

月や名りもよさせんよめ 豊言 せんの中法橋幸代

待てくろ月や名りもよさせんよめ 定次 京都氏

ちるをおりふまめ名月のおくめ舟

南陽かれを 好道

やまあれとあさ名りくもぬ雨乃月

月をおくこころく 貞園 大坂

のくこむふまめ名月をそくろね

名月乃つるそのやまめよくら 重寛 大坂

おさいくめいくりたるの舟 正重 尾州 畢氏

九月十六夜

きく月乃彩やくひ十六夜 改古 出羽秋田

舞妓の袖さそう 宗法

やよろづ端うり出る弥生や月乃嵐しみ

ねまつこそみやこ月乃ふるまのふる 雪鷺

みるにつけ 夏長

祢ふひとりねこそきりとるや嵐しみ

そいの小谷うり 則常

むこやまねまつこそよめのきこえ

いくちうよろこ 夏成

あふさとりやまいくちうる

松うた

あひ生乃まつ 雪隆

推舞

とこまてやこまつるみ乃てから笠

紀秋みを 退歩

うたゝ寝のへりみたちきむしたきの

みうり 久任

たやまこそまつるまつ山寺の鐘

卜琴

野うりやまに茶こそやこかう

おとがみと云物を　如貞

ものゝふの矢なみつくろふこうもりかな　松の

梅せうえうと山もたゝなし淵もなし　國次　筑紫杉長

神はたゝあるにまかせてうそもちる　去陰　揚屋町

ふりあやまみきも乙鳥のかへる　自宣　江戸神田

波乃花さくりとするのやおとがみ

梅山下くゝり雪をふせて二月の光

ふりもるゝといふるこゝろをおりし

出仕ふく

元陳

山路とをきさるの尾乃いろや梅もさき

快秀　三河岩川

すさるいろや二月乃もゝり打くゝく

独琴百韻乃誹諧よ　油さ

はま〳〵まを打もやくへ共そ乃もゝち

ちゝふ山とみるやくへ共そ乃もゝち

ちゝふやまこもんもこゝもちかな　秋田

ちてふやまたてうみやまおもてのおん
　　折りおるふしを　元隣
秋ぞとも　ことをまやまた
　　古近き場まで　宗寛
きそそこぬるはちくらの場やうえもの
　　もみぢ枝をこく　定義
黄そそし　ぬるいろやこのもかもと
　　落きそふをふを　忠的
笑ふそそるやまこもまく　金屏風

おなふ来遍
まんぐんなたく　もも山やもももも
　　改之
ま向山まて
ふもふもくや　宮ふ
　　ふふふんまりもちぬくうもとふ
ふくるやかしたりもちぬくやうもとも
　　宗信　大坂
もももろのまやへんぐれ
　　僧月演　肥後
谷川り人をくまもももかも

近次　三代

小倉山

宗砌

小倉山

安治　播州住人

小倉山

為家　藻

小倉山

久郁

小倉山

宣安　江戸

小倉山

永利

小倉山

三信

小倉山

玉栄　長崎宮守

小倉山

道之　大坂

小倉山

山ふかみとりてもつかを伯夏　大坂

秋山のまくのそらもやゝ赤く　いろ

藝列泊山みち　温古　唐崎

おつゝあり赤き　いろ

赤きまで実るみち安藝よりも

秋乃いろやゝて出山乃赤みち

やまにみちくる　重明　摂東

ふもとにて尼よりけやなりのこう

伯山

くもの中よりそ　清宗　大坂

庭まねきみちのもみちを　主翁

庭ふきうつすもみちを可全

庭やいろそふるすゝきゆふそよ

好意　越前福井

松と竹ふかきみ乃思やうそんふ

松と竹ふかきみ乃思やうそんふ

松と竹ふかきみ乃思やうそんふ

為さまが（…）
（…）をとゝもに
（…）
（…）
（…）

秋の夜ふけ　辣口　肥後熊本
いろそへやちりつもりくらべもとる

絵よりうつす　重寛　大坂
松乃枝のあらそふを　信方　若狭
独毒も秋ふたちゆく紫式部
栗乃実よりおちてこぼるる　和　尾州名古屋
ふるせいのよりおちてこぼるる　諫也　さま
くりの実よりおちてこぼるる

秋乃夜旬中より　廉吉
秋風乃ふく音聞うちる松乃葉

ちれちれをかりもとつる志ろ丸哉　久住
ちりつもるをはらはでぬる　行純　安藝広島侍医武
露霜をはらはでぬきし糸改志ま
秋乃夜　次良
露よ雪やおとをきゝ知つるき

題仙
松一野へやしろく秋乃ふるさとの

根うかみつゝ

人乃ゝもみぢ野辺の

こうねいろそえんぶこゝあそみもち

秋乃雨乃ふり

小田乃面乃おつきやせもち大納言

ひばち田そのもみぢ

おもゝを

重成 丹波亀山藩士

みそらくこのれんぶ乃おもゝさ

温古 義列藩

可慧 淡州竹ヶ鼻

則常

武 金沢氏

九月廿日夜半過ぎ堺町の新宅蔵開

始祝ひとして発句せよとの事に被應に

藤映おもてうつれハ 季吟

もとそる霜乃藤映や孔雀乃尾

人乃ゝもみぢ野辺の

もきさゝをとゝめて秋

秋乃雨ハうつるをかりのやどりかな

秋乃月ハうつるをかりのやどりかな

人のゝ名れそ 吉氏 金沢

ふみそうこゝろこゝろの本ぬき秋日あり哉

新續大筑波集

羈旅誹諧連哥

ものをもふねの用心をせよ
貞徳

猿ころもきみよりいでゝゆくもうれふる秋乃景
可全

海邊をいまをひろをもわたりゆんきのくにみちひ
保友

とゝとうとくもとまる川
とまりやあるもの猿

日くれてまよふ
好現

そろ〳〵も爺をすりもろみこそ
雷氏

いろかまき猿をとるまよかちそろ〳〵
わら衣まろもちをりもとめて
三德

ゆよろ〳〵わるひをそろ〳〵
伊勢松阪

こゝろの一重ハさそふを松ともあらぬ
柿園
林所
うめ桜やそれも尾花の袖さそふ
久郁
かすみこめたるきやうかさ
保安
桜湯の香よりもまれにもるゝ
まれにのちらぬをやれ惜ゝ
卜翠
独吟の半
宗祇
月もうきまでうき
園もうつりうつろハゝ
松乃色
よハるまい
季重
かいきをすれいせき

山ふかみ春とも
いる事の
山かつのねの
ゆきくれて
舟橋や
乃景

おもふこと侍りて住吉に侍りし頃

うきめをばかつ〳〵海人の

住吉の岸の姫松いく代かは

如貞

老いぬれば今ぞ乃下葉のかつ〳〵

あるまゝよりもそでぞしをるゝ

かねをはなれいにしこひしき

兼言 掌侍乃方 橘氏

女郎

好名

松ちるころ志わりなせきまき文乃ころ

三十りに志ぐれ志ぐるゝ川そひ

よさゆとて柳乃もとに志ばらくあれ

あるころ志ぐれ志ぐるゝ川そひ

柳陰を

好名

柳陰をかりの人々わかれ

うちつゞきひぐらしなきわれもまた

文郎

柳陰をまつりの志ばしとゞまれる

わかれのかなしさのあまりにこんきょ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

新續太祇波集卷第七

戀誹諧連歌

山男あつ
ともろともの
いそれぬ事
玉ひろねろ
大洪のよう
わさそれと人
ひとうやう

可全

久郁

宣安

季吟亭
よりも急
きづくもいろ
わくひや次
かなくぬこひを
みくけぬ

貞成

秀盛 江川かま村

ゆきくらみ雪乃末をもとりこゝろ
をこゝろへしらくもあひく恋る也

市南野乃いかむこくいひとそう
はゝそるなゝひハするみ乃くく

うち出まとみいとゝはるゝり

日もちきさをゝ契るやゝそく
こひ乃ふかりもねを益母草
抔圃ゟ白うりやとんそくハみゝる

則常

むかしをふかゝ迷ゐきゝ恋乃ま荷ゐく
ねゝるゝ芭蕉也あひはま

棟善

恋ゝいのち拾ハ男鹿ゝとらふゝ
かきゝまゝる恋ゐく八何

山崎宣親 屋列

ゝゝ雪乃末をもきゝんをゐきゝ恋ゐ
あひくゝ拾ゐゝ恋れゝゝ

順忠 大住井泉

ん〻ハせうきさう同とゝのいとすゝき
小男鹿乃毛まくもこひやあそしぬ
らん
大添 山内松川氏
なふ柱つんりうもするやまき乎
こゝやこゝ乃うつくしきをすりたくり
すゝみ
姉ゝりこひ之ゝ
平敷利そゝみ雲ハくゝくゝ
せくゝ乃 おりくゝまねこよ。
かくやくりを乃 季吟

亦乃ゝ中に あけはゝゝ身をい
りせん
三信
ちゝ之をうみとゝ
ひゝとゝハあゝもゝ本こゝゝ
可都 志農
みゝこゝかゝる中乃文をこ
ゝのゝつゝ
油元 々々
くゝみゝうゝをゝよゝ
亦乃ゝ中に 志ハ乃よまゝすゝぬ

いそう

玉ぼこの紙すきこうじやうの座にて

心すごろくうまれ

勝雲　法養

くるみこの乃あとに

ちら長ひうそ　女郎りようろふ君

蜘ク

ざこそて

狩ぼくんやれをこぐろぐろこみこよ

奥田改こ長ひよ　きこ此ぼ出を男

ま志めてよ

季重

保安

這こうもこもみ　ぼうて座をまうて

いくみこそ八もとふこんを

あき　　為頃　播戸ぐこ歌二子住

あのこうこうこ等こうふ

友之ちいる　かーのうこうをみを

みるハうき　　季時

まり人ハきもせ

這乃ぬ中

うこも這

吉明　河内之

ゆきもとくるやまさやこうく

三信

まのあれ松人の心中わかいのち
とりなりよ数万里
るなるこんとひをよりれよ
骨をりきこひを

宝明 芸本

小障子をあくあくれり
ひきとめ吉のひいる有

学あく 山氏

ゆきもとくるやまさやこうく

元禄

えみもとまりハる性
柿園なるり 見くともをみとせくく
ゝくる乃来
穂多とむともひくくやー猫毛
おりりきこひを
ろむとるこりきこひを

宝明

元禄

奥氏 改く

うこハはやうきこころね

久吉　津国住吉

雪の肌みれとも見ぬゆの下も
辛度志のひとくもるふゆまち

絲野也好之介

一八

ふるくとくやしや普てうの下の常
三世の千きり有ますし

燕石　大坂

おもひ内をもひろやかにつた共常
きゝやれ犬と猿との中みく

卜翠　山崎

やうくこころあふ雨乃別
こゝろのをりをゝるくこゝろ

可盤　長崎竹ノ下

常ふのよめくこゝろもうきさ
死期りてるくこゝろ

彩雲

なりひさめくこゝろハうきの十二三
むすふちきりよゝめあくる中

庵哉

いとさくらめとにいかおやうりこうりみそ
信濃善光寺
よりもおそくや

如圓

上野のはるのやまぶみ
俳諧合せ
糸中

はるのやまぶみやうぐひすのこゑもすれをこそ

則常

春ぶくれやうもあるそうひねもす
藤曲軒雲亭
まづ腹いのる

月のかつみう
小林秀信 冊改

花よめがこもあれまるひとも

春の日のどかなるかな　びんぼうゆすり
高良 脱字歟

春雨のふるにまかせてそうろうん

雲久 日向国 内田氏

一期とてもちまきも雲のみなもし
ありあやまとすれとみるねの中

久吉 佐土原

いとのをも雲のふさみをまとれめや
ふくそくそくとかわまうねこと

妙乃　大坂

正久　猪苗代

正秀　蓼宇

季吟

秀成 [illegible] 村

元隣

嶋田中一亭

[illegible] 井上氏 [illegible]

可盤 竹ヶ鼻

康吉

おそ湯桶乃うこわ
きこゑ肩へ
蛭もゝよやこり
おいぬのこゑ

一雪

遊やこれ多
夕もゝ乃
き
あゝさわろく
とくこゑ

宣定 指列平帥

退歩 冊夜裏式

そゝれ葉乃せ
そいか舎
そゝ乃寒用
さぬきねりせ
千村一歩無
ゝゝもし

季吟

則常

ゝとくあゝ
遊乃白木中
が山ゝこゑ

一歯

連哥

煩悩のあるの通ふう

家之　大枝

きそふをひとを百八のうね

うつをはこぶる中

正次　伊勢の人鹿候

むつことはまる夜のうね

棟吾

別あそふ人のはうくおりうはこく

なるみのうちよさて

童明　紫

ひろ平ふくのうきわれ

如見

ひろ平ふくのうきわれ

文ちやせかめを同とめをこあの世そ

うらくやまる江やうそ

正信　梅ノ下

ありうまき人春かな
ちまきとくにたもるまもるく

みりぬれとめてこゝろみまり肌みれく　正利　撫子会
いそよりおふるもしるき腸

きくやこゝろみまり肌みれく　宗信　雪中庵
いれくうてやこゝろみ奇士乃本
もりそうみく

如貞

そまかこそしよくひりこれうこゝろみく
あるこゝろ三れうこゝろみく
ちくく春ますいまれすこゝろめ　原成　平作

あるこ乃おまうこゝろみいれれ乃
ちくく春ますあひれ乃中　可順　撫子会社野係

きはまう心をもみまき病くそり
季吟亭ゟ
乃こそもまき　文都
ふこ乃ふこそもまき

うつゝえうやう優さやさき

おさあるを表も立てせまされうて
いかりよりふきぬよのつゝ風

老婆

きゝの里りはまやゝまうしし
男女とちきることちよりもち
て

うつゝや突ぬりあひおもふ中
をいかい合に桃心を測うかくこひ

忠良

ねんしやゝまうとゝは地うやうんん
九月七日手ゝ書ふ長ひうきよ別紙ハ暗
乃風共淋ふきて　さんそい
あもうまうこうさ名乃音羽やまの
独吟百韻乃中ハ　志のひちあうハ
てんくふうれ　宗祇ゝし
名やあん月乃さうを分ほうて
ひとんおうゝゝハひうきを分ほうて

名乃多ん事や
季吟亭月次
このむらも
三信 伊勢松坂
ひとめ乃せきもまいそ為ける
可全
そくへ乃ミちもさこそなく
松乃ミな者六ま 八八乃ひとまき
ミちあらて
春九
わすることもうれやそくまゝ
ゑ乃ミ乃ミ中に おろ〳〵ともふ

ミち乃名がミそハ
奥へいりてうくひす
退寿 丹波
ミこやとる名乃
あれそくる
ふそく乃ミんきやそわかおとひ
ミのひとをうくる袖
康吉
坊をまそ〳〵おとも乃衣乃玉ゆさり
正次 伊勢山田
腹ぐ多川

こそそり
てあつにそそむをいそくかくそん
むさとすてんもけるそうある中
元波 八歳
ふいそそりいそねいむねんてそうこ
おりひろうねや名こそうあそれ
三信
てくそうこまそくそる神乃そそる川
よろこひわれとみる神乃宮
栄寿 山代

ほめくらいたそうこそうきそうみそく
おかそそろうきそそそそる二番乃
可教 美濃
かつまもわもわれそこれをかそうもかそうもかくめる乃くそう
一和 尾張守
おりまいゆふ乃ふさみな同くれて
三のひよる俗坂乃そうれめる
保文
ほそりそくよ話そけくやきそう

いとおひろうねりうまるをやうろ

重明 葉末

山里乃まるのねぎをともものひろく
友仙 真ひの
ためおふ 風れな 似貞
名ひろうう いいけうれめ乃舩
真乃名 玉章をそもみな
結ひさひ 可牧
多いせいまもをねるハうる我
ひまるえんもおてまやや

如貞

おもひけうすあれ乃多ハくるの
そもそも 似ハねかしこ又春や

忠改 の列楼

せそくをひもとうがひろまさ
あきそそ 女髪おろうろ

永久 ちる寿氏

山田そる 信部乃ろ元場そぶれく
松をひうろのみろうようさ

久吉 はる味名 恒之氏

乃内もひくねる　季吟

霧とふるれ霧とおもふくぜもうく

柿園そなりし中川

そうも　遊仙

むねもあく湯乃わきうしし

独吟乃半ば　清乃坂乃辻りまり

祝　　てはく

かりそめのうらうらをあうて

むりを志の小今乃改を

俳笑　同情乃友

のちうれいいとうんきうみうきうき

いとやうもしまいくやしき

ちうくの山のちうのうきうきうき

紫赤乃夜の　西次　但る八鹿

よき中もういまれくうひなる

おりの中りしやまきいうひ

貞明　望氏

ねる哉誰きうう神ひきやうん

そいく合や　ちんどよりてこ神を八
こむ　　忠良

ゆきとこがねすこ　みやまをひもとく
ふる乃ふる神　あちこもきこと
こころもくく　子弟の問
栗柿乃くもゆきこと　ふることを
葛よなのうこと　ふるとよまぬいさうひ
ようやようよ　可全
柿園乃ふ　ふるとひちひこ
ともちゐやもれ

常世　野口氏

おうさいさい　ふるとやまぬいさうひ
ふる乃ふるんきいた　ふるをふたんみて
すいうそる　ふる
ひこ　友仙亭百韻俳諧　わがとがめ
友仙亭　季吟
乃人よみこひ
あるこころもきさ　多了誰ふるんきせん
何ふるうこと　述懐
仲勝

松もるつ　ひとすもる人のこころは

さそまして　季重

なかめこしいとをそもるいろく

元隣

あらはちをとるもまつる滝せより

鳥なかなく　お泊をも十こんまそや

そやもそん　ていとく

はてをそてすちかいつるきろこけ

人のそとく　花のそやしかの

さうそう　露吉

うろくとそる谷のしら雪

日あしもやゝ行のとなん山ざくら

うらゝかさ行のまにく散ゆく

平好

小ぐらとの人日ぐもむふ新らしく

朝日山よりくもとてらふふ

いつくの夜より数いあるらん

殿下 三秒

うつり梅郎のまにもまよ初

重明 芸名

仰ぐ名乃りの日すゝ月

卜琴 山時

宗祇法師

薫乃指圖ハやゝ人

打成

物とまをする梅宇之をうつし十二月孤

重明

秀國 [illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

おとろへ傷をいたはりつゝ湯治するいとあはれなるさま

秀長 描二之一

ものゝひやうぶ風呂乃うちてきこゆるもいとやさしてい

ねる

かゝるおりふしにあひたるこゝろもちいかばかりぞや

大坂傷家

このそこみえぬ地震ぢかに

かふめりやあすをもしらぬ

ちびるゐのなごりなれば

季吟

ほとゝぎすやちんさいもんの山ともり

をるもなくなくする高もせ

保友

三日のうみてあふぎうちわ

[illegible]

[illegible]

名のこと人を[illegible]

神代を[illegible]

大そらや[illegible]

吟しあう[illegible]

[illegible]

[illegible]

杵屋六四郎
あくこと
大ぶつ八幡よりさきくと井ゐみさと
主をうけ多乃うろうきてい
正次 大坂
衣なりおうみせきをすゑみせうり
主見をもちおいうろもる多乃
忘 一ち 大坂居民
思をおうみ世きさく繁昌する
うきさうきさうきさ名をもるも

杵屋
すまみうそうそうそうそうそうそう
くもこそみうそうそうそうそうそう

寫宝 大坂
忠政 行内植松

小ものや四季の
三改良りかけをく世を市
ようるもし 秋色 大坂
すこよやとせと雪八すこうくく
やとくいうそうそうそうそうそう

零成 平野

借銭乞はるゝ人に名をつけし
大坂　佐元

はるれいひとりおさ無借銭
おゝよろこかり共彼をよりれ
春吟　大坂

ひろうらひくすゝもおひもの
をもさうらハうるさゝうり
正次　但る八鹿宿

ゆうく春こゝろのおもひ
くるゝまゝ八まのうく
負成

大坂の青眞ひを掃ひよせて
まゝ玉ゝゝ　又梅めり頃う
おゝいやりうのうり
春吟

そうりもしまよ一ふをもあ
ひろうさいふぐん乃ちまでるまゝと云れ
ありゝゝもてうまる
可順　播州姫路野店村

ゑこの夢とつぶやきながら神さひり　春江
月をすりこぎにねぬや秋の男　宣安
夜もすがらうろこの塵をひき縄をうひ
それうそうんまそのよく　真勢
まことものきとどろきをはうれうをねつこ
門よりおくへ出ぬつら人　友次

如来をも恵ますとも誘ひ言うり
みよろくやそひもるへひろまる
みまき　負成
誘せ！ひとみこ
ゑりまよこ　僧如海
過行をのちはれゆくうそて
夜ふのおもひうつみおそて　僧秀成
すくそのうそ併善うく

一重　はる平野

則常

慈仙

彩雲

氏長　牡丹

貞明　伊勢氏

よもすがらひさしうなりぬる
こころもとなくおぼゆるに

かくこそ多くあいおもひぬるよしを
八幡松花堂のもとにて
やすひでのむすめ
をんなどもおのおのてうじ
松のこだち
をかの社
たかさごをみやこのものどもおほく
まうでおがみけるに
夢吟
おなじくはとしのかずにももちぐ
受一 そうし
竹馬をまつ竹枝のとしもなを
秀長 二条家氏
おりくはとしのかずにもものぐ
やせこ当代るうたよみにて
保安
犬のとしのごとくにてやすくて
年ふるすれありれあるてい
御室

むねのあまもこと斗を果て
朝の霧り神ハ去川ゆり

厚成 平野

むさゝめる名利ハなしみなく
杵園子旬よ 坊主りあると狐ハす
う

元隣

人こゝろをとる世りわすられて
勝田廣童與ゆま 離りる利ん
とふりけ

雪炎

ふと世をひゞきまりはる

名もめいそ

安直

笑流 汚

ちんるともの心

とひもをきこゑ色うき名や立なん
はと物心すりすゝめ神

彩雲

らむうぬの世の物憂やうん
友仙與彩の手

せうをとこうひ

もとりの世をそ神をもつもやこ
信行氏長ひよらくをするみ男を
とそこへ

富士山のめもみ雪をうまこあ
かうれをこうる事ハ何うも

ひさぶ　季秀

兼岑　南郊

北日あもりのあ寒とやめぬもなりり
　　文中　原氏

奉公のせうりあうりちむや今まうり
そくあをもきふあもなやすい
　さんをい

こぶもやうりうさうるさうをえ
とくくやくをハさう出
も　文都

洌りおくうきをさをろあし
委とあるう中ハうち多をも許ハい
とせさそれん　平吉

わるさうみうかくまおさふ

世を捨るのちりもすてゝ三とせ
出家こそ猶うき江とけゝれあるあめ
勝田廣重 号

いさりひかたのありさまこそ
大坂保受 真号 公家
うらもちかる浪のよりくるあしの
行ゑもしらぬ季吟

相うちぬきとりあひさき

いろそよるといとをかしこきあふこゝろ
よくきけかしとてもあくてをも
吉成 紀州粉川

よこよりいろそふりよるあふひ
ひをしたるゆるやまとう
好名 大坂

いとあいとかくてのいかゝあふひ
うらはをもいれてこそ
宜春 浪花

仙そそそ二枚屏風み来市みそ
野山をかそる人そそそけん
安永 仙そ牛野

海川乃絵いむつ
友仙真りのそ
そそ掛合せ 季吟
そ山乃忍ハ二
三人与 ふそ一対
大鳥そひそ布袋像ふそ

人ひふる心まるそのそれや
可教

こそも又とこれ
そそまそ月そり
久都

いそんむそひ歯乃あるみせし
よそなつまりそむ乃こそ
保安

いそそるそそをさそれいそべり
そそ乃中そ

負成

大坂

宗政

兼世

南枝

保友

好足

三輪乃やまさけ乃名そ久しく
芽ひ志ま寸

三次　備後二子村士民

てるしふ八蜂そ

之信　大坂

杵園

安光

すゝろ乃戸乃内ゝり

泰雅

酔ねるかおそ猿りこそ似れ

歩きそくそろ

快温　さま

氣味そくふ世ん酒そやすもん

彩雪

さくらもみぢのこりそめ
のこりはおちてまれのうち

大三戸小うめの
梅山もり小庵を
こもりはてるさみけの
海もりをみるきさらぎの

可政 このさみけうる

雪香 はま三四

厚成 平野

あまれ酒もの
こひそめん

城お乃山里
秋萩秋尚
おもひもそめ

好道 大坂

秋尚もみぢ
古屋政信
杉たゝかれん

季吟

雨ふりつゞく
独ねぬる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

燕石

童明

うちきそるさいこみもちをとりそると
みなる味をそのをそこみもそれ

康吉

尽八ちとうきさはきるひとよきり
よとりてふりまの女ちち

雪梅 そりまりこ二女

絵竹のよみんをみよきるみく
ふびろおそりの等るやまりみ
そりそみ

まうりやのどみるくこん

十二月廿八日長りに 修死ハて来を
動すりなる琴そ 太源 旨
ひきよみそうりの双六ハきそひみく
ほはめをうりの双六ハきそひみく
志のよそのをなりひきつ梅
重香 はる三田
みるさいみこをこひみく
ひとまてそく

かちまけをこれをさいごの筒乃うち
友仙無りるに　ぶをはひとよの
はつて　可牧
てんそよくへこの将棊
ふりあもちてるみそ名
はまちをを何と将棊乃ほりそもの
いつもよ打そはめまもろう
文郎

かこそもいつのわちやへ八題よる
そねるよもやとめろねん
快湛
せめう者一金と銀とうち将棊
庭をはめしるハちうすや
有恵　山氏
ちうるうりそもてもみ将棊
はくをひつてもめる和尚なま
宗政　森村氏号宮居
めうくハ主をおも井土そもさ

[illegible]

碁乃きり出すくせ　見豚　揚子会三子

碁乃きりくのやう　脇のうち

囲碁うらん之乃　負明

中ものをりも　幸乃うれさ

いろく

[illegible]

[illegible]

すめる碁み月を　清風　冊波山田

おやこをくみ人乃あきの月をとりし

助言をうもおもふ　童香　注玉三田

こゝろうりめる演乃つさひ

可員うの行うる

かこむ碁み助をいろ

清けさ十六夜やもりぬん

保友

させるひさしうち朋さいひそう
それて里次年とり浦ける春乃風
　　　

はきそろ

元隣

名香をたきそろえてとりやせん
まれびとそろふ焼モノあと

沈香をしたく匂ふ夕まぐれ
おくきそろんよりもをきけり

かこふまず席もりこぼれ
筆理こそあしけれ山すゝろ

勝政 播戸ニテ木ノ百発

もる松 英木 濱

去やうを待ぬるみさしのあさがほ
十とせのくち宮川へし中おもき別

宣安 江戸

もゝとせかうまさうをやみさまき
根乃ちきさ幸をかきさをろるみく

好屋 大坂

うくひすのうりつるされくまといふかへ事
世乃中乃あそびもうろうりハよもきそて

竹むすまるうみくやひめ

重明 英木

友仙長ひさまつ　公家いをとろふ元
亭乃未

舞出よりハ尺出をせんまちてわうひ
ねとちきをちぎめてうくる情哉つ
森由已　天保

八句乃詩こ兵し絶句とハなれ
そ三人乃こころもつて
作る詩を沅湘日夜くふり出そ
いひけをもしとすることなかれ
退歩　丹波

うこハすこ尾ふるうよき
おもうつせ一歌つまろひ
三信　二世石牧

一和　尾州名古

めうりあひをくうやうれもわ乃ふ发
耳りちのいをいりあひ乃ろ
好現　西民

能周乃うこみをくとりまつ
そねる鯉乃うへをおさゆる
則常

久まうとも志ら連哥乃せよ
友仙眞りの
ひろさ
連哥師ハわ
をもふ
一ぢ乃句うハ
よふう
第二乃ねハ連哥をかろ
ふ
久都
もふをもまつ
ひとりこ
何か 佐之
ありよきおるもおりひいりそし
うをもて
厚成 平助
ひとりせ梅
もりよ

連哥乃せよ
むりを志ま
ていく
心を改
ふ
ふ
ふ

十一月めでたさも

保女

秋やそのまゝあいもかはらず

好乙

そふりまく白いこゝろをそのまゝに

我まゝやとをれをとるひも

うそをやしなふ乃中ぬもいゝ

まつとこやまちをるひとの

ぬりうるしかはるあいさつそれや

康吉

一ト敵ひざをもくづすひとも

あるかおもくなりひをかも

ちまき葉とうふよ 平吉

情錢乃例を渋団もうねり

ひねり付ける 春峯

世をかるもみぢやせん

浮世をそらく
みめそよく
貴人をまつ
やくそうちへ
ふきぬるの
あかゆるひを
さいりされ

一首　なりま

竹指

法朝

ふるをめを
をとりを
波ろうこね
酔うすも

竹下　指戸

かくらいを
筆勢うりた

菜

如貞

ひきくさいろね
ひきひろきりそ

秀盛　信常

やれくるまわ

ひつくみる
之朝
つくせるはるひつくれるまうし
かみねる詩馬やこころうこまこ
可盤 この作る
大象ノをまさをもるみねの中
やあかねとこ春しこれをんれく
むねとりやく名こるりこをきた
宗政 森村氏
伊波是秋百韵ノそいふ真ノやし

けの場りやくみうそくる
ていく
友老あるりあめる弱ハはいまり
みりまあめ
うことこびうやこ玉はうみえん
なりる八海ノ
可政 この
春
あれくる空まりうみをひうま
ちわうこみそうん

くらハるゝも名ゑんとり京
松浦りてと楽のとくくもる
てゐく

いそしやハいやしうくらん
ふるとゝ北ゝるゝ行乃あやしさ
如巴

浜のそる雑ハ以太あるやうん
ひとうとハくてゝあつゝ塔うし
一松 順忠

きをつるまもありよそわるも蛾
と扇乃はうちあつゝん家はくり
順忠 大作

蛾りやいとを長ゆるあやふさ
やいとをハかりくまもおもて
よせ
可成

めてさいはうやゆる九乃蛾
くるくくてといとをまくりり
宝明

とゝ急よしし新八乃かうに蛾のめく

八雲そう

ぞくこぬきこの尾いおくれぬ
三陽山のこの尾ゆきやちるぬん
法ひとし秀
とをくこぬる松もこのもち
人のよりんをまちわるてい
主久 高砂 仙寿
みまやせんだんのこのひゆきやまこぬ
志 秀信 小林氏
大乃こゑとりまつやまこれのよめこそ
人りやまこれのよめこそ
信如海 能寄
ねすこしくつるむもとうこいこせもく
月次後秀ちにいそもこまんよ
八谷川
季重
子里ゆくとよみをはれ
次乃家
如貞
ちくよいとこるゆこの

うちかとむやねのうへまで乃
景　　保武
かのこまもとめつゝ乃猫ともり
そゝろかにさてるつきのかげ
山陣をひきもとめつゝ奥塚り
おのまきさゝてまつ里乃むさゝれ
さんとい
野陣とる武士もよろひも風ふれて
勝田居宝亭にて　ふきよもるあき人
乃つゝみ　　李童

さゝ波乃ひかりあまねき陣をとる
人乃舎やまつ百騎ほど乃軍ゝ
露乃ほさゝるのみあるさゝめかな
　　貞成
大音さゝ一声鉦を名のりつゞ
うちをさゝれはさゝとゝろ
　　玄朝
とゝまらせ無鉦をや仕のさゝらん

[illegible]

さやそうまうすや合戦
　　将国名知　信春
きそろうもちを
城炮ういうをねらひ
鉄炮を持をとりひしめく
武士乃声
　　勝信　五余部氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

熊谷のくるくるのうちも
よりあの幸せをいのりまし
末当ものく武勇を人のひをいわく
手柄とあらそ
場あしきそ
おもちもり出来ぬかようまし勤
そもものこと
老婆
ほうらものはばの指乃
ていたはよろくこあ
侍乃語くまのうち
ほうらものこと乃
やふよりもなれる指をさしゆく
あれをそこる指をさしゆく
運命を月乃うち
ありくありくと
侍乃語くまのうち
おちあいハ神乃
洞ありくり

退歩　　冊後裏

ぬる 大坂

則常

安直

春九

みさをまもるや清きさうてたき
わかれるこころにまかせてこそ
なつこしきさをきねいるるかぬの
里人食事乃
てるき名りのがりて世ぐやこ逃
いそくとよる雪よ肌
枕屏 古流

化生乃ものを哀れ女となりとり
こゝろのまゝよりやもさかぬ世のみち
光敬
そやるともさくをうきさいとのこし
ゆきをゆれぬらもかぬこゝろく
ろのこさあるめいぬことをろきく
そこ乃いろこむかそやらひろん
貞成
秋津きし指乃月きまるまめをそよ

あれはてぬ口ゐきこゝろや

久吉 漢詩会席題

療治ともなをりうるまで病ひう

いまもこゝろやのうむうやく

保文

こゝろ身をうひんきをとゝまつる

こゝろ山こゝろもまつる野

安永 作る生野

をこゝろ世をこゝろくおいれ今こゝ

花こゝろもゐきこゝろんせいぢや

保文

なこゝろうこゝろしもちゐき

きんこゝろしもうこゝろ我こゝろ

作雪

おこゝろをゐこゝろ大納言

神乃法ゐこゝろかねをはりわる

可全

こんひうこゝろとりねをこゝろ

こゝろゐこゝろはひうの

雪松 芳来

雑春誹諧連句

はるをそこ
嘯よひゐる妻いろの
かとの野乃
わうむ　はきの
あかり
やう
燈燭をとく
をこの夏
平吉
勝春　法

稲くきい寝る場
やの乃
ひまさうそ
そる梢
正信　そうまこまお
ねいりまるこ
ちゃ乃
忠政　河内掾

雑秋詠諸連哥

それよりも

重明葉

きく人も秋のなかばの

さてもまた

秋きぬと

加賀

風よりも

夢のみさをの

新山

をるめりの

あさやまし

貞徳

来ぬまでも

とりねぬ夢と

かよねとも

九月八日の

ひろめきく

いちの月

正章

おもふこと　正武

くもけとこそや空ハ海乃月

三信

弥くりハをも因出痔をつと痔よ

それさうをめくれそ

久郁

月乃やうみそいつり月つさよよ

女仙真いり乃多白に春乃景めも

季吟

さくのりくひくしおみ

きくんハ月乃をれくること

久郁

なゝ神のすこるれきく

鉄炮とやめんハ世こそのちくもり

可申

月をかりひとりハうり殺生

鳥先原ゝり朝をおりて　うくとおめて

さいふ年よれ　てゝく

すゞきあくるハみ川乃民

和漢之誹諧

誉(メテ)霧欲(ツ)喰(テ)瑠璃

一歯　天海

うき寝する人の袂も露ふかし

向(ヒタ)昏(クレニ)自(ヨリ)扱通(ス)ル

徳元　ケ

とも〳〵法の猟師八やまとりくる

心とも恋の涙ぬるく

音信やふるき　季吟

無隠(キ)秋ノ

水鏡月姿見

久郁

かつら藻をかり乃露ふる狐

可(シクシク)愛(ラシト)宣秋露

季吟

霜飾(ル)地(ヲ)銀箔

保友

おもきさうやかりの

錐(モ)衡(カクト)噫(ア)物思

季吟

下級望期擲ッ

一歯

いさくひ出ッ

ゝを迄ヘ名告ヲ

ありつゝはまをひとりねまて

月幕ニ仙人ノ術

季吟

一歯

愚癡モ智慧ハ

車幸ハ棒返ヲ

ゝをもひ辻ヲ

養もも中

観ハ泛ヲ鷺ノ光ガ躬ヲ

法元